

## 褐条病の対策（蒸気式催芽での酢の利用）

### 1) 褐条病とは？

典型的な症状は、地際部から上部に黒っぽい条斑が見られます。  
軽症苗であれば本田で生育しますが、重症苗では育苗床で枯れます。

### 2) 現在の対応

温湯消毒では、褐条病の防除は不十分です。

そのため、循環式催芽では、催芽時に穀物酢4.2%の50倍液を用いて、防除効果を高めています。

一方、蒸気式催芽では、褐条病に対する防除は、温湯消毒のみであるため、十分ではありません（表1）。

### 3) 新しく開発された技術

本年度、上川農業試験場から、「蒸気催芽に対応した食酢処理による水稻の褐条病の防除法の確立」が報告されました。

作業の手順とその効果は図1・表1の通りです。

図1 食酢を用いた褐条病に対する防除の作業手順

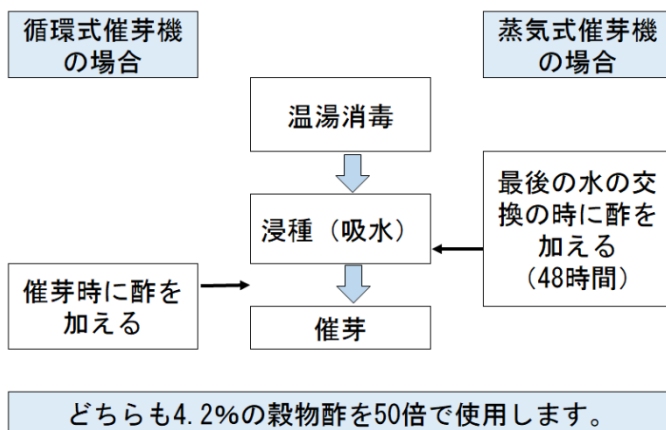


表1 食酢を用いた褐条病の防除効果（蒸気式催芽）

処理区分	重症苗率 (%)
無処理	17.6
温湯消毒のみ	1.6
温湯消毒+食酢	0.4

\* 褐条病菌の保菌糶を使用

\* 重症苗は地際から2～4cmで発症した苗

\* 平成30年産種子の保菌率とは一切関係ありません。

表2 褐条病に対する食酢の効果

区分	備考
共通	食酢の濃度が濃い ⇒ 発芽率が悪くなる。 " が薄い ⇒ 防除効果が低くなる。 50倍を厳守してください。(980ℓの水に20ℓの穀物酢)
	酢は酸性なので、使用後は容器を良く洗ってください。
循環式	いままで通りに行ってください。催芽時に食酢を加えてください。
蒸気式	食酢を使わない蒸気式催芽(いままでの方法)では、褐条病の保菌籾のみが発症する可能性があります、隣接する種籾や育苗床での感染はありません。
	蒸気式催芽の場合、必ずしも食酢を使わなければならないわけではありません。
	表1のデータを参考に、導入するかの判断を行ってください。
	浸種時の最後の水替え時に食酢を加えます。 水温は10℃前後を保ちましょう。 水は循環している方が望ましいですが、静置でも効果はあります。 「48時間」の標記は「24時間～72時間」を示し、その時間内では、防除効果・発芽率に大きな差がない事を示しています。 概ね48時間前後と考えてください。 催芽直前に種籾を温湯で温めても効果に違いはありません。

#### 4) 種籾の受け取りについて

昨年、一昨年の移植始めと収量の関係は図2の通りで、移植始めの早い人が収量が高く、移植が1日遅れる毎に、昨年は9kg/10a減、一昨年は7kg/10a減となっています。

育苗日数30日、移植始めを5月20日とした場合、種子の受け取り及び浸種始めは4月8日となります。

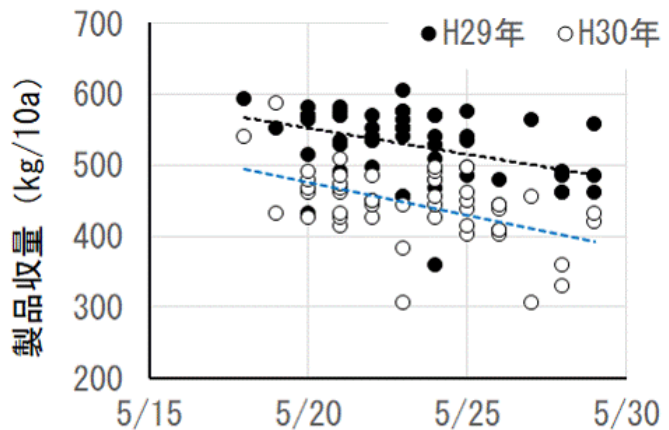


図2 移植始めと製品収量の関係 (個人別収量)

名寄地区 品種：はくちょうもち